

基本方針 2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます（1）公私が力を合わせて高校の教育力向上をすすめます


【重点取組の点検結果】


項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
5 就学機会 の確保と学 校を選択で きる環境づ くり	16 高校の授 業料無償化等 (注)	【公立高校の 授業料無償化】 公私を問わず自 由に学校選択で きる機会の提供 (H29 年度)	授業料無償化の 実施	府内公立高校生 の就学支援金制 度（1、2、3、 4年生）を実施	○	公立高等学校授 業料無償化の実 施	◆国の交付金を活用して府内公立高校生の就 学支援金制度（1、2、3、4年生）を実施 した。
		【私立高校生等 に対する授業料の 支援】 公私を問わず自 由に学校選択で きる機会の提供 (H29 年度)	授業料無償化制 度の実施	授業料無償化制 度の実施	○	私立高等学校等 生徒授業料支援 補助金	◆授業料無償化制度を実施した。 制度の検証のため、公私の流動化状況の分 析に努めるとともに、平成 29 年度の私立高校 の新入生及び 3 年生の保護者に対し、学校選 択に関する満足度調査を実施した。
		—	—	—	—	公立高校生等奨 学給付金事業 私立高校生等奨 学給付金事業	◆平成 26 年度以降入学の 1、2、3、4 年生 を対象に、市町村民税所得割額が非課税であ る世帯に対して、授業料以外の教育費の負担 軽減を目的として、奨学のための給付金を支 給した。

(注) 平成 26 年度から奨学給付金事業を実施しているため、具体的取組を「高校の授業料無償化等」に修正した。


項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
5 就学機会 の確保と学 校を選択で きる環境づ くり	17 奨学金制 度の運営・運 用	【公益財団法人大阪府育英会における奨学金事業】 奨学金申込者における中学在学時の奨学金制度周知度：98.0% (H29 年度)	奨学金申込者における中学在学時の奨学金制度周知度：96.2%	H28 年度実績 奨学金申込者における中学在学時の奨学金制度周知度：98.4% ※H29 年度実績はH30年7月下旬公表予定	◎	公益財団法人大阪府育英会における奨学金事業	◆以下の取組みを実施した。 ・中学校の教職員等に奨学金について説明会を実施 ・府内中学3年生全員に奨学金の趣旨等を記載したチラシを配付 ・経済団体を通じて企業を訪問 ・府内の病院、診療所、高齢者施設、図書館等にポスターを掲示 ・寄附者に対する思いを「奨学生の声」として育英会ガイドブックに掲載し配布
		給付型奨学金の事業資金の確保に向けた寄附金目標額： 2,000 万円 (年額) (H29 年度)	給付型奨学金の事業資金の確保に向けた寄附金実績： 約 630 万円 (年額)	給付型奨学金の事業資金の確保に向けた寄附金実績： 約 6,046 万円 (年額)			
		【奨学金制度指導・支援の充実】 生徒・保護者に対する奨学金制度等の周知や相談の支援を引き続き実施 (H25 年度～)	生徒・保護者に対する奨学金制度等の周知や相談の支援を実施	生徒・保護者に対する奨学金制度等の周知や相談の支援を実施	○		



項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
5 就学機会 の確保と学 校を選択で きる環境づ くり	18 府立高校 における広報 活動の充実	府内全域を対象 とした大阪府公 立高校進学フェアの開催に加え、 ブロックごとの フェアを開催す るなど情報提供 機会の充実 (H25 年度～)	大阪府公立高校 進学フェアの 実施	大阪府公立高校 進学フェアの実 施	○	広報強化推進事 業	◆大阪府公立高校進学フェア 2018 を実施し、 延べ約 17,000 人が来場した。
		各学校の広報活 動の充実 (H25 年度～)	各学校の広報活 動の評価・改善	・全公立高校の情 報を掲載した「公 立高校ガイド」の 配布 ・全公立高校の体 験入学日程をホ ームページで公 表	○	「公立高校ガイ ド」の作成	◆6月下旬に府内全公立高校の情報を掲載し た「公立高校ガイド」(約 90,000 部)を府内 の全公立中学3年生に配付し、府立高校の広 報活動を行った。
		学校情報検索シ ステムの運用 (H25 年度～)		学校情報検索シ ステムの運用		高校入試情報提 供事業	◆「大阪府公立高等学校・支援学校検索ナビ (咲くなび)」を運用。中学生・保護者の情報 収集や中学校の進路指導を支援するため、高 校入試に役立つ情報をシステムで提供した。
	19 私立高校 に関する学校 情報の公表・ 公開	【基本方針7 具体的取組 129 の再掲】					

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
6 公私の切磋琢磨と連携・協力による取組み	20 英語コミュニケーション能力の育成	生徒の英語力 TOEFL・TOEIC 受検者数 増加をめざす (H29 年度)	生徒の英語力 TOEFL・TOEIC 受検者数 使える英語プロジェクトによる団体受検者数 225 名 実践的英語教育強化事業による受検者数 574 名 (24 年度で終了)	生徒の英語力 TOEFL iBT オンライン 練習テスト 受検者数 1,801 名 (府立 1,656 名 私立 145 名)	○	骨太の英語力養成事業 	<ul style="list-style-type: none"> ◆対象校 17 校で SET (スーパーイングリッシュティーチャー) による TOEFL iBT を扱った授業を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・iBT 特設レッスンの実施 (放課後、土曜日) ・iBT オンライン練習テストの実施 (府立高校 17 校、私立 4 校) ・生徒の海外研修支援 (海外語学研修の引率教員旅費を補助) ◆英語力の底上げのため、在籍校によらないオール大阪の視点で、意欲ある生徒に対する「聞く・話す」能力の鍛錬を行った。 ◆Advanced Class 前期 56 名、後期 69 名 (府立 99 名、私立 26 名) ◆生徒の海外研修支援 (海外語学研修の引率教員旅費を補助) 対象校として 19 校を決定した。 ◆短期留学支援 文部科学省「高校生の留学促進事業 (短期派遣)」により、学校が主催する短期の海外派遣プログラムに参加する生徒に対して、1 人 6 万円を上限とし、留学支援金の支給を行った。 (府立 1 校 12 名、私立 2 校 40 名に支援)
		府立高校生のうち英検準 2 級相当以上の割合 30% (H29 年度)	府立高校生のうち英検準 2 級相当以上の割合 25.8%	府立高校生のうち英検準 2 級相当以上の割合 38.6%		◎	

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
6 公私の切磋琢磨と連携・協力による取組み	20 英語コミュニケーション能力の育成	英語教員の英語力 府立高校における 英検準1級、 TOEFL550点、 TOEIC730点 以上の教員 60% (H29 年度)	英語教員の英語力 府立高校における 英検準1級、 TOEFL550点、 TOEIC730点 以上の教員 42.5%	英語教員の英語力 府立高校における 英検準1級、 TOEFL550点、 TOEIC730点 以上の教員 64.6%	◎	骨太の英語力養成事業 (再掲) 	◆対象校 17 校で SET (スーパーイングリッシュティーチャー) による TOEFL iBT を扱った授業を導入した。 ・教員への iBT 研修の実施 (計 5 回府立 34 名、私立 7 名参加) ◆英語力の底上げのため、在籍校によらないオール大阪の視点で、英語科教員の指導力を高めた。 ◆英語科教員を対象としたネイティブ講師による短期集中研修を実施した。 (7/31~8/4 に 25 名参加) (府立 25 名)
		英検 1 級 TOEFL iBT80 点 TOEIC 1,190 点 (SW 含む) IELTS 6.5 以上を保有する府立高校の英語教員の割合 20% (H29 年度) (注)	英検 1 級 TOEFL iBT80 点 TOEIC 1,190 点 (SW 含む) IELTS 6.5 以上を保有する府立高校の英語教員の割合 14% (H26 年度)	英検 1 級 TOEFL iBT80 点 TOEIC 1,190 点 (SW 含む) IELTS 6.5 以上を保有する府立高校の英語教員の割合 18.0%		△	

(注) 平成 26 年度より、英語力の底上げのため、短期集中研修など英語科教員の指導力を高める事業を実施していることから、教員の英語力を測る指標を新たに設けた。

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
6 公私の切磋琢磨と連携・協力による取組み	20 英語コミュニケーション能力の育成	ユネスコスクール公私合わせて30校 (H29年度)	ユネスコスクール公私合わせて17校	ユネスコスクール公私合わせて23校	△	大阪ユネスコ・スクールネットワークの取組みの充実	◆【大阪ネットワークの取組み】 ・「大阪ユネスコ・スクールネットワーク2017年度総会・研修会」を開催(7月) ・日本/ユネスコ パートナーシップ事業において「日中 ESD-GAP 推進国際ワークショップ2017」を実施(12月)
	21 理数教育の充実	国際科学オリンピック世界大会への出場 (H29年度)	国際科学オリンピック全国大会での入賞	国際科学オリンピックに561名が参加し、うち35名が入賞 (世界大会への出場は日本地学オリンピックに1名出場・銀メダル受賞)	△	おおさかグローバル人材育成事業	◆以下の取組みを行った。 ・京都・大阪数学コンテストを実施した。(7/16、23校152名参加) ・SSN連携校(府立14校)の協力のもと、大阪サイエンスデイ「大阪府生徒研究発表大会」を開催した。(10/21、28校1,400名を超える高校生が参加) ・大阪工業大学との共催で「科学の甲子園大阪大会」を開催した。(10/21及び10/22、20校140名の高校生が参加)
	22 キャリア教育の充実	事業再構築に基づいたキャリア教育の推進 (H26年度～)	各校の事業計画をもとに推進校を指定 府立学校58校 私立学校14校	「キャリア教育支援体制整備事業」で構築したノウハウの周知及び校内体制の充実	○	キャリア教育支援体制整備事業 [H28年度末事業終了] 	◆これまでに構築した校内体制及び就職支援に関する情報やノウハウを進路指導担当教員に周知し、校内支援体制の充実を図った。

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
6 公私の切磋琢磨と連携・協力による取組み	22 キャリア教育の充実	「志（こころざし）学」実践事例集の作成 (H29 年度)	府立高校全体で「志（こころざし）学」の実施	府立高校全体で「志（こころざし）学」を実施し、実践例を蓄積	○	「志（こころざし）学」の実施	◆平成29年度大阪府教育センター研究フォーラムの分科会（12/26）において、「志（こころざし）学」の取組みについての実践発表を実施した。また、優れた実践例の共有を目的として「志（こころざし）学」実践事例集を作成した。（府内小中高支援学校教員・指導主事・教員を志す学生等42人参加）
	23 公私間の教員の人事交流や合同研究会の実施	公私間の人事交流を継続して実施 (H25 年度～)	公私間の人事交流の状況4名	公私間の人事交流の状況 0名	△	年度当初教職員人事異動 	◆公私間の人事交流の継続実施に向けて公私で協議を行った。
		合同研究会を継続して実施 (H25 年度～)	合同研究会の開催	進路指導担当者を対象者とした合同説明会の実施（年2回）	○	統一応募用紙等説明会 	◆府内公立高等学校及び支援学校高等部の進路指導担当者を対象とした、就職差別の未然防止及び早期対応のための合同説明会を開催した。

基本方針2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます（2）活力あふれる府立高校づくりをすすめます

【重点取組の点検結果】

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
7 社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実	24 グローバルリーダーズハイスクール(進学指導特色校)の充実	進学実績等の向上、取組みの活性化など、パフォーマンスのさらなる向上 (H25 年度～)	グローバルリーダーズハイスクール 10 校	グローバルリーダーズハイスクール 10 校において、大学進学実績が向上	○	グローバルリーダーズハイスクール支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆10校共同の取組みを実施した。 ・海外派遣研修(生徒12名をケンブリッジ大学などに派遣 7/22～7/31)にかかる事前研修 ・京都大学・大阪大学と連携した取組み(京大キャンパスガイド(11/5)、阪大ツアー2017(11/25)など) ・10校合同発表会(2/4、大阪大学会館) ◆10校の評価を実施した。 ・5名の外部有識者で構成する評価審議会を開催し、平成28年度の各校の評価を行い、結果を公表し、また平成26～28年度の各校の評価を行い、10校の再指定を決定(H29.7) ・平成29年度評価に向け、評価審議会委員による学校視察(H29.11)、学校長からのヒアリング(H30.2)を実施
		再指定制度の構築(指定校入替、新規指定など) (H25 年度～)		再指定により10校がH30年度から改めて3年間指定		◆再指定制度により、平成30年度より10校を再指定、新規指定希望校はなかった。	
		文理学科の拡充の検討 (H25 年度～)		H28年度より2校で文理学科を拡充し、H30年度より他のGLHS8校でも拡充決定		◆平成28年度選抜から2校(北野高校、天王寺高校)のすべての学級を文理学科として募集した。また、平成30年度選抜から他のGLHS8校でもすべての学級を文理学科として募集することを決定した。	

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
7 社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実	25 国際関係学科の充実	国際関係学科の新たな方向性を検討 (H25 年度～)	・国際教養科を設置する学校 6 校 ・国際文化科を設置する学校 3 校 ・国際科(グローバル科)を設置する学校 0 校	新規改編校なし	△	国際関係学科の充実	◆新規改編校なし。 (参考) ・国際教養科を設置する学校 5 校 ・国際文化科を設置する学校 3 校 ・国際科(グローバル科)を設置する学校 2 校
	26 新たな学科・コースの設置や改編	新たな専門学科の設置(専門コースからの移行を含む) (H25 年度～) 新たな専門コースの設置 (H25 年度～)	専門学科 35 校 専門コース設置 校 30 校	H28 年度より、府立箕面高校の国際教養科を国際科(グローバル科)へ改編 ※専門学科 35 校 平成 29 年度 3 校に専門コースを新たに設置 専門コース設置校 39 校 (計 60 コース) また、H30 年度に 3 校に専門コースを新たに設置	○	新たな学科・コースの設置や改編	◆平成 28 年度選抜入学生より、府立箕面高校について国際教養科を国際科(グローバル科)として募集した。 ◆平成 29 年度 3 校に専門コースを新たに設置した。 (平成 29 年度) ・府立東淀川高校 ・府立かわち野高校 ・府立りんくう翔南高校 ◆平成 30 年度選抜入学生より、府立北摂つばさ高校、府立緑風冠高校、府立金剛高校に新たに専門コースを設置した (11/18)。


項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
7 社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実	27 工科高校の充実	高度な職業資格合格者 300人 (H29年度)	高度な職業資格合格者 150人	高度な職業資格合格数 232名	△	実業教育充実事業	◆熟練技術者の指導による高度な職業資格の取得や、課題研究のレベルアップを図った。 ◆老朽化や安全性を考慮し設備の更新を行うとともに、産業界からのニーズや学習指導要領に対応した設備を導入した。 ◆平成26年4月から工科高校9校がそれぞれの持つ強みを生かし、人材育成を重点化した3つの型(①「高大連携重点型」、②「実践的技能養成重点型」、③「地域産業連携重点型」)に分け、目的に応じたカリキュラムや学習プログラムを展開した。 ◆生徒・保護者対象の進路説明会などにおいて、工科高校魅力化推進プロジェクトチームで作成した工科高校PR映像を掲載したホームページを紹介し、工科高校の魅力発信などを行った。
		工科系大学への進学実績 200人 (H29年度)	工科系大学への進学実績 121人	工科系大学への進学実績 139人			
	28 農業高校の充実	—	—	—	—	農業高校の充実	◆「今後の大阪における農業教育のあり方の提言書」(平成25年3月)を踏まえ、老朽化や安全性を考慮し、また農業の6次産業化に対応した設備の更新を行った。 ◆企業・大学等と連携した実習・インターシップを支援した。

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
7 社会の 変化やニーズ を踏まえた 府立高校の 充実	29 大阪府教 育センター附 属高等学校の 充実	—	—	—	—	大阪府教育セン ター附属高等学 校の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆外部連携による授業プログラムの開発 ・1年の学校設定科目「探究ナビⅠ」において、企業の協力を得て、演劇的手法を用いた授業を行い、生徒が研究発表した。 ・2年の学校設定科目「探究ナビⅡ」において、地域・大学・専門学校の協力を得て、歴史・防災・福祉等のテーマの授業を行い、生徒が研究発表した。 ・3年の学校設定科目「探究ナビⅢ」において、大学・企業の協力を得て、「起業」をテーマとした授業を行い、生徒が研究発表した。 ・児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現の体験を行った。 ◆ICT機器を活用した授業の実践 ・「探究ナビⅠ・Ⅱ・Ⅲ」において、タブレット端末を活用した授業を実施した。 ◆文部科学省の事業 ・「高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業」を実施した。

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
7 社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実	30 生徒の「学び直し」等を支援する新たな学校の設置	—	—	—	—	エンパワメントスクールの設置	<ul style="list-style-type: none"> ◆「平成 29 年度までに開校した高校」 ・西成高校、長吉高校、箕面東高校、成城高校、岬高校、布施北高校の 6 校の授業力向上を図るため、5 教科担当者会議等の連絡会や研修会を定期的実施した。 ・キャリア教育コーディネーターやスクールソーシャルワーカー及び各校担当教員に対し、連絡会や研修会を定期的実施した。 ◆「平成 30 年度に開校する高校」 ・淀川清流高校及び和泉総合高校の教育課程を編成し、施設、設備の整備を実施した。 ・エンパワメントスクールを紹介するパンフレットを作成し、府内の公立中学校 3 年生全員に配付した。 ・府内各地域で開催される中学校長や進路担当教員等の会合でエンパワメントスクールについて情報提供を行った。
	31 通信制の課程の充実	—	—	—	—	通信制の課程の充実策の検討	◆通信制の課程の充実については、平成 25 年度から平成 30 年度を計画期間とする「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画」(平成 25 年 11 月策定)において、「引き続き検討を行う」こととした。

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
7 社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実	32 生徒の授業アンケートを活用した授業改善	「授業アンケート分析システム」の完成 (H25 年度)	「授業アンケート分析システム」の作成開始	H25 年度に目標達成	◎	府立学校教育 ICT 化推進事業 「授業アンケート分析システム」	◆各学校が授業アンケートを実施するにあたり、集計業務を業者に委託するための資料を提供する等、各校が工夫し取り組めるよう支援した。
		府立高校全校に対するパッケージ研修支援の完了 (H27 年度)	府立高校 27 校に対し、パッケージ研修を実施	府立高校 11 校に対し、パッケージ研修を実施 ※累計 (H25～29 年度) 141 校	△	府立高校パッケージ研修支援Ⅱ	◆授業評価等から明らかになった授業改善に関する課題を解決すべく、組織的な校内研修体制を確立するとともに、教員全体の授業力を向上させるため、各校の実態に応じた授業観察シートを作成するなど、継続的な支援を実施した。
8 生徒の自立を支える教育の充実	33 デュアル総合学科の設置及び「デュアル実習」実施校の拡大	「デュアル実習」実施校の拡大 5 校 (H29 年度)	「デュアル実習」実施校 2 校	「デュアル実習」実施校 3 校	△	デュアル総合学科の設置及び「デュアル実習」実施校の拡大	◆デュアル実習の成果を広げるため、府立布施北高校でデュアル発表会を実施した。 (11/18)
	34 「夢や志をはぐくむ教育」の推進	—	—	—	—	「志（こころざし）学」の実施	◆平成 29 年度大阪府教育センター研究フォーラムの分科会（12/26）において、「志（こころざし）学」の取組みについての実践発表を実施した。また、優れた実践例の共有を目的として「志（こころざし）学」実践事例集を作成した。 (府内小中高支援学校教員・指導主事・教員を志す学生等 42 人参加)

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
8 生徒の自立を支える教育の充実	35 不登校の減少・中途退学防止の取組み	中途退学の課題が集中する学校に対して中途退学防止コーディネーターを配置 (H29 年度)	中途退学防止コーディネーターの配置 35 校	中途退学防止コーディネーターの配置 34 校	○	中途退学防止コーディネーター配置	◆中途退学防止コーディネーターを配置している学校からのヒアリングを実施し、今年度の取組みや数値目標、校内組織の体制について確認した。 中途退学防止コーディネーター連絡協議会を1回実施し、各校の取組みを共有化した。 2月に中途退学防止フォーラムを開催し、全府立高校及び市町村立中学校を対象に、取組みの成果を発信した。
		冊子「中退の未然防止のために」(改訂版)をすべての学校で活用する (H29 年度)	冊子「中退の未然防止のために」を活用	冊子「中退の未然防止のために」(改訂版)の活用		「中退の未然防止のために」(改訂版)の活用	◆「中退の未然防止のために」(改訂版)の冊子の活用を促進した。
		—	—	スクールソーシャルワーカーの配置 4 校	—	様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業	◆様々な課題を抱える生徒が多い府立高校(定時制課程)4校に、スクールソーシャルワーカーを配置し、その4校で連絡会を4回開催し、校内体制や支援事例等について情報共有を行った。 (参考) H28 年度全国平均(公立・定時制) 中退率 39.7% H28 年度大阪府平均 (公立・定時制) 中退率 14.9%

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
8 生徒の自立を支える教育の充実	35 不登校の減少・中途退学防止の取組み	—	—	—	—	教育センターにおける相談機能の充実 	◆様々な悩みを持つ子どもや保護者等に対し、効果的かつ効率的な相談を実施した。 ・専用電話相談の実施 ・24時間相談窓口の実施 ・教職員の悩みの相談の実施 ・対面相談の実施 ・集中電話相談の実施及びインターネットによるメール相談の実施 ・SNS を活用した相談の試行実施
8 生徒の自立を支える教育の充実	35 不登校の減少・中途退学防止の取組み	高校適応指導教室の充実 (H29 年度)	高校適応指導教室の設置数 1カ所	高校適応指導教室の設置数 1カ所 (入室者数 延べ20名)	○	高校適応指導教室の充実	◆「不登校生徒への支援モデル事業」により、府内 20 校に研修やケース会議、コンサルテーションを行った。
		サポート拠点数 10カ所 (H29 年度)	サポート拠点数 1カ所	サポート拠点数 14カ所	○	課題早期発見フォローアップ事業	◆NPO 等民間支援団体と学校が連携して、学校内に「居場所」を設置するとともに、外部人材を配置し、福祉や労働等の関係機関と連携・協力するプラットフォームを構築。悩みや相談ごとを抱える生徒を支援した。 ※NPO 等 11 団体が計 14 校と連携し、延べ 6935 名を支援
	36 障がいのある生徒の高校生活をサポートするための人材の配置	スクールカウンセラーや学校生活支援員、学習生活支援員を希望する全府立高校に配置 (H26 年度)	スクールカウンセラー 151 校配置 ・学校生活支援員 (介助員) 34 校 ・学習生活支援員 (学習支援員) 28 校	H26 年度に目標達成 ・学校生活支援員 (介助員) 32 校 ・学習生活支援員 (学習支援員) 37 校	◎	障がいのある生徒の高校生活支援事業	◆エキスパート支援員として、全ての府立高校にスクールカウンセラーを配置した。 ◆生徒一人ひとりの障がいの状況に応じた学校生活支援を行うため、希望するすべての高校に学習支援員、介助員を配置した。

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
8 生徒の自立を支える教育の充実	37 長期入院している生徒等への学習支援	学校からの要請に基づき非常勤講師を配置 (H25 年度～)	非常勤講師を 6 校に配置	非常勤講師 12 校に配置	○	長期入院生徒学習支援事業	◆生徒の入院している病院等へ在籍校の教員が出向き、状況に応じた授業を行うため、非常勤講師を府立高校 12 校に配置した。
	【具体的取組 46 の一部再掲】	遠隔授業システムの運用開始 (25 年度)	—	H25 年度に目標達成	◎	長期入院生徒学習支援事業	◆2 校が遠隔授業サポートシステムを利用した。
9 つながりをはぐくむ学校づくり	38 学校協議会による保護者・地域ニーズの反映	【基本方針7 具体的取組 124 の再掲】					
	39 専門的知識を有する社会人の積極的な活用	人材バンク登録者数 7,000 名 (H29 年度)	人材バンク登録者数 5,556 名	人材バンク登録者数 2,770 名 (H30.3 末現在)	△	社会人等活用推進事業	◆特別非常勤講師 教員では担当できない領域や内容について、専門的知識・技能を有する社会人等 (担当する教科の教員免許状を持たない) が授業を担当し、生徒の学習活動などに対する成績評価を行った。(88 校、計 21,239 時間) ◆社会人等指導者 文科系部活動、帰国・渡日生に係る異文化交流指導、福祉に係る授業において、専門的知識・技能を有する社会人等が教職員の補助的な立場で教育活動を支援した。 ・文科系部活動 133 校、計 2,645 回 ・帰国・渡日生支援 11 校、計 396 回 ・福祉に係る授業 16 校、計 290 回

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
9 つながり をはぐくむ 学校づくり	40 中高一貫 教育の取組み	連携中学生の能 勢高校入学割合 50.0% (H29 年度)	連携中学生の能 勢高校入学割合 35.8%	連携中学生の能 勢高校入学割合 38.8%	△	連携型中高一貫 教育の充実	<p>【能勢高校】 能勢町教育委員会、中学校長を含めた会議を設置し、中高連携活動の充実や教育課程の改善などに向けた研究を行った。</p> <p>◆会議の開催 ・小中高一貫教育総会 (4/21、小中高教員が参加) ・小中高一貫教育事務局会 (全 11 回) ・能勢高校を応援する会総会 (9/22)</p> <p>◆生徒交流 ・能勢高校体験入学 (7/18、8/28、10/20) ・能勢高校文化祭 (10/1) ・能勢高校土曜日講習会 (9 月～1 月全 9 回) ・小中高一貫教育研究発表会 (2/2)</p> <p>◆教員交流 ・キャリア教育部会 (全 7 回)、グローバル能勢 (地域学習) 部会 (全 7 回)、グローバル英語部会 (全 7 回)、学力向上部会 (全 7 回)</p> <p>【豊中高校能勢分校】 能勢高校における中高連携を改編後も引き続き行うため、豊中高校能勢分校も連携型高等学校に指定した。</p>

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
9 つながり をはぐくむ 学校づくり	40 中高一貫 教育の取組み	柏原東高校の中 高一貫選抜募集 人員 80 名 (H29 年度)	柏原東高校の中 高一貫選抜募集 人員 60 名	柏原東高校の中 高一貫選抜募集 人員 60 名		連携型中高一貫 教育の充実	<p>【柏原東高校】 柏原市教育委員会、中学校長を含めた会議を設置し、中高連携活動の充実や教育課程の改善などに向けた研究を行った。</p> <p>◆会議の開催 ・中高一貫推進委員会（府教育委員会、市教育委員会、高校、中学校 7 校で構成）(6/27)</p> <p>◆生徒交流 ・毎月バドミントン部との合同練習 ・生徒会執行部中心の早朝あいさつ運動（H28より） ・2 学期開催の「体験学習祭」対象柏原市立 7 中学のみ</p> <p>◆教員交流 ・板書講座「美しい板書文字」（柏原東主催）</p>
	41 高大連携 の推進	府教委との包括 協定を締結する 大学 25 大学 (H29 年度)	府教委との包括 協定を締結して いる大学 22 大学	府教委との包括 協定を締結して いる大学 24 大学	△	併設型中高一貫 校の運営	<p>◆平成 29 年度 4 月に府立富田林中学校を開校し、6 年間を通した一貫性や系統性を持たせた教育をスタートした。</p> <p>取組としては、基礎学力の定着を目標とした「富中未来塾」において、中高の教員の他、希望する高校生が学習サポーターとして参加し、中学生の学習を支援した。また、「文化祭」、「体育祭」などの行事でも、中高の生徒が協働し、実施するなど、中高一貫の活動を行った。</p> <p>◆平成 29 年度に新たに府教育委員会と包括協定を締結する大学はなかった。</p>

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
9 つながり をはぐくむ 学校づくり	41 高大連携 の推進	大学での講義の 受講により単位 認定を行う学校 25 校 (H29 年度)	大学での講義の 受講により単位 認定を行う学校 19 校 (H23 年度)	大学での講義の 受講により単位 認定を行う学校 16 校	△	高大連携の推進	◆大阪工業大学との共催で「科学の甲子園大 阪大会」を開催した。 (10/23、22 校 150 名が参加)
		高大連携実施校 の割合 80% (H29 年度)	高大連携実施校 の割合 76.8% (H23 年度)	高大連携実施校 の割合 79.9% (参考) H25 年度実績： 76.6%			
	42 公立大学 法人大阪府立 大学との連携 推進	高大連携講座を 受講する学校数 を増やす 15 校 (H29 年度)	府立大学の高大 連携講座を受講 する学校数 6 校	府立大学の高大 連携講座を受講 する学校 11 校	△	公立大学法人大 阪府立大学との 連携推進	◆高大連携集中講座 ・「工学研究の最先端」 2 校 4 名受講 ・「セクシュアリティと看護」 1 校 19 名参加 ◆出張講義 18 校延べ 3,112 名の生徒に対し講演を行っ た。


項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
10 学習環境 の整備	43 府立学校 施設の耐震性 能向上・大規 模改修	【基本方針8 具体的取組 131 の再掲】					
	44 府立学校 の老朽化対策 と空調設備等 の整備推進	【基本方針8 具体的取組 130 の再掲】					
	45 府立学校 の ICT 環境の 充実による 「わかる授 業」の実現	【基本方針7 具体的取組 127 の再掲】					
	46 在宅等で 学習する生徒 への ICT を活 用した支援	遠隔授業シス テムの運用開始 (H25 年度)	—	H25 年度に目標 達成	◎	長期入院生徒学 習支援事業	◆2校が遠隔授業サポートシステムを利用し た。

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
11 公平でわかりやすい入学者選抜の実施	47 入学者選抜の調査書における目標に準拠した評価(絶対評価)の導入	目標に準拠した評価(絶対評価)への移行 (最短で、H28年度選抜での実施)	相対評価による調査書を活用した入学者選抜	目標に準拠した評価(絶対評価)を導入した入学者選抜の実施	◎	調査書評定における府内統一ルールの周知と実施後の検証	◆調査書における目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)の導入に当たっては、評定の公平性を担保するため、チャレンジテストの結果を活用した府内統一ルールを導入した。府内統一ルールの運用状況について、市町村教育委員会を通して調査を行ったところ、すべての中学校で作成された調査書評定が、府内統一ルールで定める範囲に収まっていることを確認した。
				各市町村の評価担当指導主事をメンバーとした地区代表者会議を年2回、担当指導主事連絡会を年3回実施			◆中学校における学習評価の充実に向けた取組みを支援するため、府内全市町村教育委員会とともに研究協議を行った。
	48 中学校における進路指導の充実	府教育委員会主催で各地区の進路指導の核となる学校の校長・担当者会の実施 年5回 (H25年度～) 各地区・地域ごとに進路指導に係るネットワークの構築 (H26年度～)	進路希望調査を府内全域で集約	進路指導地区代表者連絡会 6回開催 進路指導地区代表者連絡会につながるネットワークとして、全ての地区で会議等を4回以上開催	○	中学校進路指導推進緊急支援事業	◆進路指導地区代表者連絡会を開催し、各地区における進路指導にかかる情報を共有し、意見交換を行った。 (H29.5、6、10月/H30.1、2、3月)
							◆地区ごとに、地区代表者を中心に進路指導にかかる会議等を実施し、各中学校への情報提供や協議を行った。

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
12 活力ある 学校づくり をめざした 府立高校の 再編整備	49 府立高校 の再編整備の 計画的な推進	年次計画に基づ く再編整備の 実施 (目標年次：H30 年度) (H26 年度～)	再編整備方針の 策定	H28 年度実施対 象校の決定	○	府立高等学校再 編整備事業	◆大阪府立学校条例及び大阪府立高等学校・ 大阪市立高等学校再編整備計画に基づく平成 29 年度実施対象校及び再編方針案を 9 月の教 育委員会会議にて公表した。 その後、府議会での議論や保護者等への説 明を経て、11 月の教育委員会会議にて、改編 を行う 3 校について決定した (機能統合する 学校 2 校、総合学科へ改編する学校 1 校)。

基本方針2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます (3) 特色・魅力ある私立高校づくりを支援します

【重点取組の点検結果】

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H29 年度実績	達成 状況	実施事業 (H29 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
13 公私を問わない自由な学校選択の支援	50 私立高校生等に対する授業料等の支援 (注)					【基本方針2 (1) 具体的取組 16 の再掲】	
14 特色ある私学教育の振興	51 優れた取組みを実践する学校に対する支援	—	—	—	—	学校経営推進事業 	◆大阪の教育課題として府が指定する項目に対し、PDCA サイクルによる高い効果が見込まれる事業計画を提案する私立高校1校に支援した。
	52 生徒・保護者の学校選択肢の一層の充実	—	—	—	—	私立学校の設置認可等	◆全日制高等学校を1校設置認可するとともに、既設の全日制高等学校1校に新たな専門学科1学科の設置を認可した。
	53 キャリア教育の充実						【基本方針2 (1) 具体的取組 22 の再掲】

(注) 平成26年度から奨学給付金事業を実施しているため、具体的取組を「私立高校生等に対する授業料等の支援」に修正した。